



学校だより

平成28年10月31日

練馬区立田柄第二小学校

校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-ky.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.462

『学ぶことが好きな子に』

副校長 横尾康幸

1日遅れでしたが、晴天のもと、無事、運動会が終了しました。運動会の実施や準備にあたって、多くのご協力をいただきました。心より感謝いたします。

さて、私事ですが、小学校時代から大学に入学するまでの頃、歴史の勉強が大嫌いでした。歴史の時間になると、「何で同じ名字の人が何人もいるのだろう？違いが全然分からない。」と友人に愚痴をこぼすのが常でした。「歴史イコール暗記」という気持ちが強くただ覚えることに終始した結果が「歴史嫌い」につながっていました。

しかし、教員、とりわけ高学年の担任になると、授業をしなくてはいけないので嫌いとは言っていられなくなりました。何とか好きになろうと思って、いろいろと挑戦してみました。

効果的な方法は二つありました。

一つ目は、大河ドラマを見ることでした。ドラマですから、多少の脚色はあるでしょう。しかし、ドラマだからこそ、その時代に生きた人々のおかれた環境や人間関係が手に取るように伝わってくる部分もあって、「もし自分だったら、この時、どう判断をするだろう」と思いながら見ていました。すると不思議なことに、あれだけ暗記することが嫌いだったのに、覚えることが苦ではなくなっていました。

二つ目は、歴史の現場に行くことでした。博多に行くと、一部ですが今でも元寇の防塁跡が残っています。防塁の前に立ち、目の前に広がる海に、おびただしい数の元の船が浮かんでいる様子を想像してみると、「当時の武士たちは、この場でいったいどんなことを思ったのだろう」と考えずにはいられなくな

りました。このような経験を繰り返すと、ますます歴史がおもしろくなってきました。

ここまで私の経験談を書きました。しかし、ここには歴史のことだけにとどまらず、学ぶことが好きになるためのヒントがあるように感じています。

一つ目には、ただやみくもに覚えるのではなく、その意味や理由を考えるということです。知識の量は少ないより多いに越したことはありません。しかし、その知識が「覚えるだけの」知識で終わっていたならば、あまり意味はないかもしれません。一方、意味や理由も一緒になった知識であったなら、いろいろな場面に転用されて「生きて働く」ものとなるでしょう。また、考える習慣を大事にしていくことは、学力を伸ばすために重要とされる「知的好奇心」を育てていくことにもつながっていくに違いありません。

二つ目には、体験を大事にすることです。体験には、時間や手間がかかります。しかし、時間や手間をかけることで、実感して分かることができます。また、体験の途中でいろいろと試行錯誤することがとても重要なことのように思います。

三つ目は、じっくり時間をかけて粘り強く取り組むということです。盆栽で、梅の木は生長が早いが大木にならないのに対し、楠は生長するのは遅いが大木になることから「梅の木（大成しない）学問」「楠（大成する）学問」という言葉があるそうです。何か一つ自分の楠学問ができることが、大きな自信につながっていくのではと考えます。

過ごしやすい気候になり学習に力を入れられる季節になりました。一人一人のお子さんが学ぶことの楽しさを少しでも多く感じ、成長していける季節になることを願っています。